

<資料1>

講義科目名 **子どもの学びを拓く授業づくり** 分野(授業開発) 1q 選択

担当者氏名 実務家教員(追分 充 津田 順二)
 研究者教員(◎藤川 聡 協力者 水上 丈実)

講義タイプ	いずれかに○ 講義中心型、 演習中心型 、講義・演習併合型、調査・体験型			
講義の目標	授業実践の分析を通じ、自ら課題を克服できる能力を身に付ける。 さらには、授業実践の優れた部分を理論化し体系化できる能力を身に付ける。			
講義の内容	理論と実践の往還への配慮 マイクロティーチングにより、児童・生徒の学びを切り拓く高度な授業力を身に付けるための授業である。			
講義の方法	協働性・能動性への配慮 マイクロティーチングとは、受講する院生が他の院生を生徒役に見立て、10分程度の短い模擬授業(マイクロレッスン)を小さなグループ(マイクロクラス)の中で順番に行い、ビデオ録画による授業解析や院生同士の相互評価を通じて授業力を高めようとするものである。			
教員の連携	実務家教員と研究者教員及びキャンパス間の連携 キャンパス間交流を通じ、実務家教員と研究者教員がそれぞれの視点から院生に指導助言を行う。			
各回のタイトル	各コマの講義の内容		担当	
1	マイクロティーチングとは	①	・オリエンテーション ・「授業力」とは(グループディスカッション)	藤川
		②	・マイクロティーチングとは(発祥、海外・国内での実践例、本授業での実施方法)	藤川
2	指導案の作成について	③	・学習指導案の作成方法について	藤川
		④	・マイクロティーチングで実践する学習指導案の構想(単元計画・本時の指導案)	各C
3	マイクロティーチング1	⑤	・マイクロティーチング1	各C
		⑥	・相互評価・授業分析	各C
4	マイクロティーチング2	⑦	・マイクロティーチング2	各C
		⑧	・相互評価・授業分析	各C
5	発表・交流会	⑨	・各キャンパスから授業分析の報告	藤川
		⑩	・意見交流	藤川
6	マイクロティーチング3	⑪	・マイクロティーチング3	各C
		⑫	・相互評価・授業分析	各C
7	マイクロティーチング4	⑬	・マイクロティーチング4	各C
		⑭	・相互評価・授業分析	各C
8	発表・交流会 まとめ	⑮	・各キャンパスから授業分析の報告 ・意見交流・まとめ	各C 藤川
振り返り・評価の留意点	評価項目 1 学習指導案(3割) 2 マイクロレッスンの自己分析レポート(5割) 3 発表内容・振り返りシート(2割) ※各キャンパス担当が評価			
その他				